



意外と手軽に可能な屋上・壁面緑化

企業にとって緑化は利益を生むのか？ということが問われます。屋上なり壁面なりに緑化が無くて建物完成しますし、居住するにはなんら問題は有りません。そういった見知から「緑化は多大な費用が掛かり無駄なもの」という固定概念が少なからず存在します。しかし本当にそうでしょうか？たとえばこれまで幾度となくご紹介してきた、夏場の冷房経費の削減。毎年夏になると「観測史上最高気温」という報道があります。年々じわじわと暑くなり、冷房がフル稼働します。28度設定が経済冷房と言われているんですが、条件によっては息苦しい暑さです。28度に拘るばかりに働いている人の思考が衰えて、生産効率が下がったり却ってマイナスになりかねません。

東南アジアの国々での冷房は寒いくらいです。しかしそこまで下げる必要はありません。なかには冷房の苦手な方もいらっしゃるのですが、大多数の人が快適と思われるところを探り、それに合わせる必要がとあります。半面冷房費も上がります。これは目に見える値で出るので企業側としては経費が多いと強く感じがちです。そこで、冷房の経費を抑えつつみんなが快適に近づけることが可能なのが「緑化」なのです。ところが、緑化には多大な金額が掛かりそうだという思いもあるかと思えます。

全ての建物が単純な四角い立方体ではありませんし、壁面もさまざまです。

その様な有る程度さまざま形状に対応出来るように考慮し手軽に施工可能な「緑化システム」をご提供しております。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

派遣として勤めていたが、ご縁があり10月から大日化成社員として入社致しました。東京支店・事務員の杜本と申します。

私の業務内容としましては、受注、電話対応業務をしております。

受注をメインで担当していますが、素早く捌けるよう日々精進しております。

前職は8年程美容業界に勤めておりました。元々細かい作業など没頭する性格であり、アートが得意です。

技術者だけでなく事務業務や指導なども行っていた為、「新入社員を育成する」ことへの学びはとても身につきました。当時は独立をすることを目標にしていたのですが、目前でパンデミックにあたり今に至ります。

私は好奇心旺盛な為、趣味がたくさんあります。趣味の一つ目は旅行です。海が好きで、南国圏に行くことが多いです。その中でも、一番の記憶に残っている国は、オーストラリアです。

自然の色がくっきり鮮明で初めて綺麗な色を見た気がしました。次に行きたい国は、マルタ島です。いつか行ける日が来るのを待ちます。



を楽しみに節約して日々過ごしています。二つ目はスポーツ観戦でいま楽しみにしているのは、今回、東京で開催される世界リーグです。運よくチケット当選したので現地まで応援できるのが待ち遠しいです。

先ほども申し上げましたように、好奇心旺盛なので美容時代ではパソコンを使う事務業務にも興味がありました。ですが、想像していた事務業務より実際の業務は思っていたものとはかけ離れていました。

技術職からの事務業務なんて勤まるのか不安でしたが、根気強く自分が理解するまで質問しても優しく教えてくれる先輩方のおかげで今は受注業務を担当させていただいています。

改善提案等も受け入れていただけるので、更に効率よく作業が今後出来るように状況把握などを頑張っていきたいと思っています。

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



次号も
お楽しみに

URL : <https://dainichikasei.cp.jp>

Vol.67

映画で学ぶ 環境問題

黒部の太陽



監督：熊井啓
原作：木本正次
出演：三船敏郎
石原裕次郎
制作：三船プロダクション
石原プロモーション
配給：日活
上映：196分
公開：1968年

昭和30年初頭、戦後復旧が進み高度成長期が始まった頃に電力不足が深刻化し、工場では週に3日、一般家庭では週に2日の送電停止（今でいう輪番停電）が行われていました。そのような状況から脱するべく関西電力が黒四ダム建設に着手します。

黒部川の水力発電は大正時代から始まっており、昭和15年には黒部川第三発電所が操業開始していました。その次に当たるので、黒部第四発電所・つまり黒四ダムというわけですね。子供の頃なんで黒部ダムなのにクロヨンダムというのか疑問に思っていました。

第四発電所が計画された場所は豊富な水量と大きな落差があり水力発電には非常に優れた環境ですが、これまで人を寄せ付けなかった非常に厳しい自然環境が建設を阻みます。ダム工事といえは大型の重機などは必須なのですが、当時は人道すらありません。人が一人やっと通れるくらいの道を作りつつ進んでいかないとけない状況で、建設の調査隊に死者が出るほど困難な道のりでした。

そのために山の向こうに資材を運び込むためにアルプス山脈をぶち抜くトンネルが必要だったのです。黒四ダムには幾つものトンネルが掘られています。

その中でも最大の難工事といわれたのが、大町トンネル（現関電トンネル）です。

本作はこの難工事である大町トンネルを掘ることを主に描かれた作品です。

映画化も当時としては破格の制作費が投入され、関西電力はもとより実際に工事に携わった建設会社も大々的に協力し、チケットも購入するといった企業コラボの先駆けです。

なかでもトンネルの途中に、岩盤の中で岩が細かく砕けた軟弱な地層である破砕帯があり、ここからアルプス山脈に眠っていた膨大な水と土砂が噴出し、工事が中断せざるを得ない状況になります。

結果として破砕帯は約80mだったのですが、あふれ出す水（0℃に近い水温）を回避させるためのパイロットトンネルを幾つも掘り、犠牲者も出し約7ヶ月掛かって突破しています。

作品中でも崩落して大量の水が噴出するシーンがメインに描かれています。CGのない時代に実際に何百トンもの水を流して撮影した際の水量が想像を絶する勢いで、主役の石原裕次郎氏もけがを負い、他のキャストやスタッフに死者をだしてしまっただと思っただけです。幸いにも映画では犠牲者は出ていません。

そのような難工事を経て昭和三八年に竣工し、京都府の80%・大阪府

の20%の電力を確保出来るようになりました。総工費は513億円（当時）。現代に換算すると一五倍程度？の7700億。青函トンネルでさえ約7000億、建設時の昭和38年という天文学的な建設費がかかっています。

黒四ダムでの発電は現代でも関西の電力需要をになう一端になっています。毎日当たり前のように使用する電気です。部屋の灯りももとより大抵の方が使っているスマホ、家電、交通などなど現代人にとっては空気や水のような感覚ではないかと思えます。

黒四ダムですが現在は観光地としても有名で、ダムから放水される途方もない水量は圧巻ともいえます。（この放水は観光放水で実際には発電していません）、その片隅には大工事で犠牲になった方々71名の慰霊碑が建っています。そこには「尊きみはしらに捧ぐ」と記されています。

湯水のごとく使用している電気ですが、このような先人の努力と犠牲によりなり立っているのです。

電力を少しでも控え、無駄な電気を消費しないように心がけようと考えさせられる作品です。